

1992 年度 (平成 4 年度) に入社依頼、23 年間調査設計部門で水産生物の研究やモニタリング業務の調査、計画、評価、管理に数多く携わってきました。フィールドは、沿岸域のウニ、アワビ、コンブ、ホタテ、カキ、ホッキ、ホツカイエビや、内水面のシシャモ、ワカサギ、サケ、カワヤツメ、モクズガニ、シジミなど、“なまっこ” うまい食材の漁場です。北海道の水産物に囲まれながら現場で過ごし、給料までもらえるという最高の職場です。スキューバ潜水により、水中でタコ・ハナサキガニやオショロコマを初めて間近で観察したときは、とても興奮しました。また、北海道特産種であるシシャモの産卵遡上河川の冷たい水に浸かる中、資源回復に貢献したいと考え、産卵環境特性の研究にのめり込み、北海道大学大学院の上田教授の門を叩き、2006 年度に博士 (水産科学) の学位を取得しました。水産生物の生息環境を保全・創出するためには、対象種の生態・生理を究明するとともに物理環境を照合するなど、多方面からアプローチすることの重要性を再認識しました。また、定量的な考察や対照区の設定など、調査検討の基本は、北海道東海大学時代に専攻した海洋環境学が役立ちました。

技術士の資格は、2013・14 年度に取得しました。これは、漁業団体と建設事業者との間に入って業務を進めることが多く、両者から信頼される技術者になりたいと考えたためです。また、近年は、公益法人も環境評価業務の受注には、プロポーザル形式等の入札に参加しなければならず、要件資格の取得は必須です。今後も継続研鑽に励み、関係機関の皆様と英知を重ね、生まれ育った北海道のために、自然と人間社会の共存を目指し、実現することにより、うまい魚介を食したいです。それと晩酌も…。

新居 久也 (にい ひさや)

- 水産部門 (水産水域環境)
- 建設部門 (建設環境)

勤務先

(公社) 北海道栽培漁業振興公社
環境技術部



→次号は、大橋正臣さん (水産／建設部門)

私は高校まで熊本県で過ごし、東京の大学で、土木とは縁のない分野を学びました。

入社以来、河川堤防分野の業務に従事しています。一年目で阪神淡路大震災が発生し、現地に行くことなく、東京で徹夜の日々を過ごしました。

北海道には、2003 年十勝沖地震で地質調査の応援に来て、翌年に札幌転勤となりました。それ以来、一時期埼玉や岩手に転勤で離れたものの、北海道で河川の業務を中心におこなっています。

技術士は、堤防実験に携わったことで、論文を書く機会を得たことが良い経験となり、入社 16 年目と決して早い時期ではありませんでしたが、「河川、砂防及び海岸・海洋」に合格することができました。

一回合格したらコツをつかんだのか、出向中の北海道河川財団の経験及び周囲の多大なご助力もあり、続けて他科目に合格。また、河川分野は防災が中心となることから、自己研さんのため、気象予報士、防災士資格に挑戦し、取得することができました。

阪神淡路大震災で現地を見ておらず、机上の検討にとどまった反省を踏まえ、「百聞は一見に如かず」をモットーに、できるだけ自分の目で見ることを心掛けています。中越地震では東京からの交通が寸断されている中、北海道からいち早く現地入りし、東日本大震災では交通網の復旧が不十分な時期に現地を視察し、がれき処理業務や地震対策検討業務等に活かすことができました。

北海道は過去より地震被害を受けており、近年の多雨傾向から水害リスクが高くなっています。今後もこれまでの経験を活かし、自己研さんを怠らず、北海道の発展に貢献していきたいと思います。

中田 智広 (なかた ともひろ)

- 建設／環境／総合技術監理部門

勤務先

応用地質株式会社
東京支社北海道支店



→次号は、富岡 敬さん (応用理学部門)